

東アジアにおける産業集積および企業連関の新展開と共生的持続性の研究

平川 均 (名古屋大学・大学院経済学研究科・教授)

【研究の概要等】

本研究は、過去数十年間にわたって成長を続ける東アジアの広域的構造変動を産業集積と企業連関の側面から分析し、以下の4点の研究目的を設定する。

- (1) 現地調査およびアンケート調査に基づき、各国の産業クラスターと企業間・地域間ネットワークを分析し、比較検討することで各地域の産業クラスターと産業構造の特徴をデータ上の観点から明確にする。
- (2) 類型化された産業クラスターと国際間産業連関の特徴を理論的に考察するため、空間経済学および国際貿易の理論的分析を進める。
- (3) 各地域の産業構造やクラスターの特徴を空間的に把握するため、地域産業連関分析や空間的計量分析経済による接近を行う。
- (4) 以上の分析から東アジアの地域間連携を視野に入れた共生的持続のための方策について考察を行う。

分析の対象としての東アジアの地域には日本の自動車産業の中心である東海経済圏、中小企業の集積する関西経済圏のほか、中国の珠江デルタ、長江デルタの産業集積、北京中関村のITソフト産業集積、タイの自動車産業を中心とした産業集積、韓国のソウル・大田・大邱などのベンチャー企業の集積地域、台湾の新竹サイエンスパークや台北を中心とした中小企業の機動的産業集積などを考えている。

【当該研究から期待される成果】

多くの産業クラスター研究が特定地域に着目した政策的視点から考察しているのに対して、本研究では東アジアを地域としてより大きな枠組みの中から産業集積・クラスターを検討して類型化を試みる。同時に、グローバル化に産業クラスターがどう対処しようとしているのかを考察し、もって東アジアの産業動態の実態とそれらの相互連関の分析を行なう。世界で地域統合が進む中で、東アジアでも地域協力と経済統合が急速に進んでいるなかで、当該地域が地域として活力を維持し発展していくための地域的政策的視点を提供することが期待される。また、産業クラスター研究に新しい学問的基礎を与えることが可能となる。

【当該研究課題と関連の深い論文・著書】

- ・『NIES - 世界システムと開発 - 』同文館出版、1992年。
- ・平川均・劉進慶・崔龍浩編『東アジアの発展と中小企業 - グローバル化の中の韓国・台湾 - 』学術出版会、2006年。

【研究期間】 平成18年度 - 22年度

【研究経費】 21,900,000 円

【ホームページアドレス】 <http://www2.soec.nagoya-u.ac.jp/~hirakawa/>